

最近ご門徒から分骨に関するご相談を受けることが多くなりました。骨を分けると書きますが、文字どおり通常一箇所に納められることが多い故人のご遺骨を、何箇所かに分けて納骨することです。身内・親戚が離れて居住している、高齢者の身体の負担を考慮してお参りし易い居住地の近くにお墓や納骨堂を構えたいといった事情が背景にあるようですが、「親戚の一部が分骨は故人の身を裂く行為であり、故人が迷うので良くないとのことで反対しています。」といったことを言われた経験があります。これに対しては「阿弥陀如来の本願の働きにより救われてお浄土に還られた故人は決して迷ったりしません。本願のいわれを正しく聴聞したならば、迷っているのは現世に生きている私達のほうだと分かります。」とお答えしました。分骨でバラバラになるのではありません。生前のように目に見える姿形有る存在ではなく、仏と成って、常に私達のそばにおられます。お墓や納骨堂は、亡き人が最後に残された姿形のご遺骨をご縁として、仏と成られた故人を偲びつつ仏縁を喜ぶ、現世に生きる私達のためのお釈迦様のご遺骨です。お釈迦様のご遺骨である仏舎利は、分骨されて世界の各所に仏舎利塔が建てられています。これはお釈迦様のお墓の一つではなく、たくさん存在するというのですが、分けることにより、より一層ご縁を喜ぶ機会が増え、私の功徳を皆で分かち合うことができます。当寺の先代の住職のご遺骨の一部は、京都の大谷本廟に納骨させていただいていますが、ご門徒の中にも納骨をされている方々があります。大谷本廟は、宗祖親鸞聖人のご遺骨を納めた祖壇があり本願寺の基礎となった場所です。「宗祖のおそばに」とのこと、多くのご門徒が有縁の方々のご遺骨を分骨されています。分骨を更なる仏縁の広がり、新たな始まりと捉えて、亡き人が還られたお浄土を想いつつ、益々聴聞を重ねたいものです。

